



東海村の 自然誌マップ

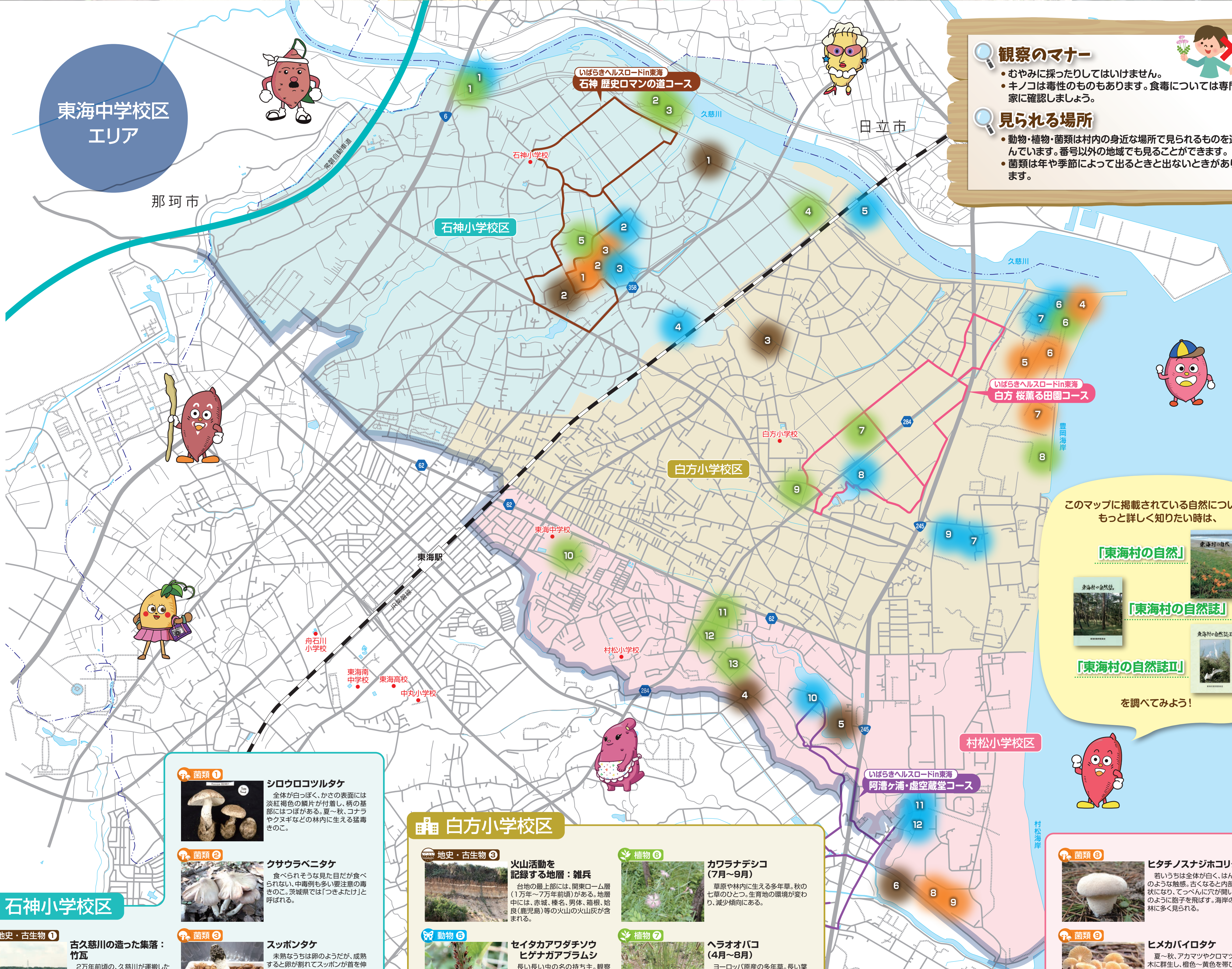
【発行・編集】
平成30年3月31日
東海村教育委員会
生涯学習課
〒319-1192 東海村東海三丁目7番1号
TEL:029-282-1711(代)

観察のマナー

- ・むやみに採ったりしてはいけません。
- ・キノコは毒性のものもあります。食毒については専門家に確認しましょう。

見られる場所

- ・動物・植物・菌類は村内の身近な場所で見られるものを選んでいきます。番号以外の地域でも見ることができます。
- ・菌類は年や季節によって出るときと出ないときがあります。



石神小学校区

地史・古生物 ①

古久慈川の造った集落：竹瓦

2万年前頃の、久慈川が運搬した土砂が堆積し、小高い地形(自然堤防)を形成。竹瓦や竹下は、自然堤防上に発達した代表的な集落。

地史・古生物 ②

古久慈川の河床礫層：城ノ内

5～6万年前の久慈川が、東海村の台地を削って流れた時の川底に堆積。礫田段丘礫層と呼ばれる。村内の豊富な地下大と大きく関わる。

動物 ①

ヤリタナゴ

細長い体つきで、流れの緩やかな小川などに生息。春の産卵期には、雄の体は部分的に赤紅色になる。

動物 ②

クロコノマチョウ

10年ほど前からススキ野原のまわりに住みついた南の蝶。

動物 ③

ウラナシジミ

セイタカアワダテソウの蜜を吸う秋の蝶の代表。

動物 ④

ヤマトタムシ

日本を代表する美しい甲虫。いつまでも村の空を飛んでほしい。

菌類 ①

シロウロコツルタケ

全体が白っぽく、かさの表面には淡紅褐色の鱗片が付着し、柄の基部にはつぼがある。夏～秋、コナラやクスギなどの林内に生える猛毒きのこ。

菌類 ②

クサウラベニタケ

食べられそうな見た目だが食べられない。中毒例も多い要注意の毒きのこ。茨城県では「つきまたけ」と呼ばれる。

菌類 ③

スッポンタケ

未熟なうちは銀のようだが、成熟すると柄が割れてスッポンが背を伸ばすように成長し、柄とかさを出げる。かさには暗緑色の胞子を含む粘液が付着し、臭いを放ち昆虫を引き寄せる。

植物 ①

セイヨウアブラナ
(3月～4月)

ヨーロッパ原産の一年草または越年草。菜種油の採取用に移入されたものが、野生化した。

植物 ②

アメリカナシカズラ
(7月～10月)

北アメリカ原産の一年草。海岸や河原などに、他の植物にからみついて群生している。

植物 ③

オオバクサ
(8月～9月)

北アメリカ原産の多年草。河川敷などに大きな群落を作っている。花粉症の原因となる植物のひとつ。

植物 ④

キショウブ
(5～6月)

ヨーロッパ原産の多年草。栽培されているものが野生化している。

植物 ⑤

ツリフネソウ
(9～10月)

水辺近くの湿った所に生える一年草。群生することが多く、紫色の花が特徴。

白方小学校区

地史・古生物 ③

火山活動を記録する地層：雑兵

台地の最上部には、関東ローム層(1万年～7万年前頃)がある。地層中には、赤城、榛名、男体、箱根、始良(龍見島)等の火山の火山灰が含まれる。

動物 ⑥

セイタカアワダテソウ ヒゲナガアブラムシ

長い長い虫の名の持ち主。観察には虫めがねがほしいです。

動物 ⑦

ベニシジミ

春から秋まで野原を舞う虹い蝶をつけた美蝶。

動物 ⑧

オオゴキブリ

枯れて倒れたアカマツの皮を食う。落ちてきた黒い虫がいた!!

動物 ⑨

ショウジョウトンボ

真夏の太陽の下、真っ赤な体が夏草に映えて。

動物 ⑩

クロコノマチョウ

10年ほど前からススキ野原のまわりに住みついた南の蝶。

菌類 ④

スナジホウライタケ

初夏～秋、コウボウムギやコウボウシバなどの海岸植物に着生する小型のきのこ。塩分に強く、栄養の乏しい砂浜に適応して生きている。

植物 ⑥

カワラナデシコ
(7月～9月)

草原や林内に生える多年草。秋の七草のひとつ。生育地の環境が変わり、減少傾向にある。

植物 ⑦

ヘラオオバコ
(4月～8月)

ヨーロッパ原産の多年草。長い葉が特徴。道路沿いや空き地に見られる。

植物 ⑧

アメリカナシカズラ
(7月～10月)

北アメリカ原産の一年草。海岸や河原などに、他の植物にからみついて群生している。

植物 ⑨

オウツチカタハミ
(5月～10月)

北アメリカ原産の多年草。道端、空き地に生える。オウツチは茎が立っているという意味。

菌類 ⑤

コツチグリ

ツチグサに似るが、それよりも星形の裂片の数が多く、表面は全体的に淡い色合い。海岸の砂地のマツ林でよく見かける。

菌類 ⑥

ショウロ

春と秋、海岸の砂地のマツ林に、別に集まるように生える球状のきのこ。松葉からしたたり落ちる露が凝りて生まれると思われ、「松露」の名がついた。食用になる。

菌類 ⑦

フサヒメホウキタケ

アカマツやクロマツの、枯れて間もない切り株や倒木に生える。珊瑚のようなきのこ。

村松小学校区

地史・古生物 ④

村松原の造る地形：細浦と滝尻

細浦の両側には「逆く」の字形の台地となる。台地の麓は林となっていて、その奥には、村松原の急峻な崖の地形が連続的に発達する。様々な化石を含む。

地史・古生物 ⑤

阿漕ヶ浦の成因：阿漕ヶ浦

阿漕ヶ浦は、古新川の支流が砂丘の砂で埋められてできた埋止湖。水源は湧き水。湖畔の樹木の立ち枯れは、先の地震で発生した液状化が原因。

地史・古生物 ⑥

砂丘：白根

砂丘は、国道245号線付近から東側に分布。原子力関係施設によって、広くは見られないが、新川北側の松林で砂丘を観察できる。

動物 ⑩

ホソミオツネトンボ

海岸、水辺のヨシの葉に卵を産み続けるカッパル。

動物 ⑪

ヤマトタムシ

日本を代表する美しい甲虫。いつまでも村の空を飛んでほしい。

菌類 ⑧

ヒタチノスナジホコリタケ

若いうちは全体が白く、はんぺんのような触感。古くなるで内部が粉状になり、つべんに穴が開いて塵のように散り散らばる。海岸のマツ林に多く見られる。

菌類 ⑨

ヒメカバイロタケ

夏～秋、アカマツやクロマツの枯木に群生し、橙白～黄色を帯びる小型のきのこ。枯木を分解する、森の中の掃除機である。

植物 ⑩

コバンソウ
(5月～6月)

ヨーロッパ原産の一年草。道端や荒地などに生える。小粒にそっくりな花が特徴。

植物 ⑪

コオニユリ
(7月～9月)

水田脇の斜面に生える多年草。野生のユリとして保護したい植物のひとつ。

植物 ⑫

ワルナスビ
(6月～10月)

北アメリカ原産の多年草。茎には鋭い刺があるので増えすぎるとやっかいな植物のひとつ。

植物 ⑬

ゲンゲ
(8月～9月)

中国原産の二年草。レンゲともいいう。休耕田などに群生している。

動物 ⑫

ジャノメチョウ

村松の砂丘、松林の幹に蛇の目が見える。

このマップに掲載されている自然について、もっと詳しく知りたい時は、

『東海村の自然』

『東海村の自然誌』

『東海村の自然誌II』

を調べてみよう!